

第3回最上小国川流域環境保全協議会の開催概要について

標記の環境協議会について下記のとおり開催した。

第3回環境協議会では、「第2回協議会指導事項の調査報告」、「今年度の環境調査計画」「今後の協議会工程」について説明し、各委員から活発な意見をいただいた。また、会議後は最上小国川流域の現地調査を行い、現地に対する見識を深めていただいた。

記

1 日 時 平成21年5月26日（火） 会 議： 10：00～11：25
現地調査： 11：25～14：50

2 場 所 会 議：赤倉温泉 わらべ唄の宿 湯の原
現地調査：ダム建設予定地を含む最上小国川流域

3 出席者 11名（12名中1名欠席）
中島委員長、伊藤委員、今井委員、梅田委員、大場委員、岸委員、
小林委員、柴田委員、原委員、横倉委員、渡辺委員（欠席者：萱場委員）

4 各委員からの主なご意見

・今井委員【環境調査計画について】

猛禽類調査を生息している5種に絞る理由を確認。平成20年度に巣立った幼鳥と平成21年の行動圏の内部解析をして欲しい。また、クマタカについては、巣立ちが7月末から8月半ばくらいなので、8月末に巣外育雛期の林内踏査をしたほうが良い。（事務局：ご意見を参考に調査時期を追加したい）

・梅田委員【協議会工程について】

第5回協議会において「環境影響検討結果報告」、「既往検討結果の見直し」とあるが、ダムによる影響を把握するため、どういう方針で進めていくのかが必要である。環境影響検討は、第5回以降も濁水モニタリングしながらみていくことで継続してもらいたい。

・原 委員【環境調査計画について】

藻類調査は調査項目としてはよい。ただし鮎の立場からは十分だが、藻類の立場から考えると、急流では日陰と日向でやるのが望ましい。

（⇒河川の規模・幅が小さいイメージでの発言で、現地視察の結果、必要は無いとコメントを個別に頂いた）

その他、藻類が増える5月くらいの定期調査も望ましい。

（事務局：今年は既に遅いようなので来年度対応できるか検討していきたい）

・横倉委員【第2回協議会指導事項の調査報告】

ヒメギフチョウの調査は、十分な調査をしたと認められる。結果として成虫が確認できなかったのは残念であるが、ウスバサイシンとカタクリの生息が可能な環境は確認できた。遠い将来、飛来して卵を生んで生息する可能性はある。本種は今回のような溪谷地より里山環境が適している。杉林の中の日が差すところが良いが、管理されず暗くなった杉林地には少ない。

